

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 計画

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名		唐津市立高峰中学校	
-----	--	-----------	--

1 前年度 評価結果の概要	・「学力向上アクションプラン」を活用した授業づくりを校内研修や中学校部会を通して職員に共通理解を図り、意図した授業づくりが実施することができた。家庭学習については、定期的なアンケートや具体的な実践結果に基づき習慣化を図ることが必要である。 ・学力向上については、「唐津の学びスタイル」を基に、単元学習計画表の活用と授業と連動した家庭学習の工夫に取り組んだ。「唐津の学びスタイル」の重点項目を吟味、設定し、授業改善に取り組んだ。学習計画表を活用して単元をひとまとまりにした授業を行っている。今後、学習の意図化を図るために、教師の役割について再確認し、教師が「つなく」、「もどす」活動を取り入れる等、校内研究を進めていく必要がある。 ・生徒に「ほめる」ことを意識して教師が指導したことで、生徒の自己肯定感が高まり、人権意識の向上につながった。また、人権同和教育担当が、担任と連携し、計画的に研究授業を行ったことで、生徒や職員の人権意識の向上を図ることができた。 ・実行委員会形式で生徒主体による学校行事の運営を推進した。そのため、生徒の主体性の伸長につながったが、生徒への支援の在り方や生徒の自主性を育てる手法等について今後、検討していきたいながら、次年度も継続していきたい。 ・組織的な対応を常に行ったことで、校務の効率化を推進し、職員の働き方改革への意図を高めることができた。さらに校務分掌において負担の平準化を図り、勤務時間の適正化につなげていきたい。		
2 学校教育目標	自ら求めて動く「高峰っ子」の育成 ～ 「主体性」・「思いやり」・「協働」・「自己発信」 ～		
3 本年度の重点目標	①分かる・できる授業の構築と確かな学力の育成（キャリア教育・学力向上） ②行事における生徒会活動などの活性化（実行委員会） ③業務改善と働き方改革の推進 ④地域に開かれた学校づくり（授業公開・講演会・各種行事・学校たより等）		

4 重点取組内容・成果指標				中間評価		5 最終評価				主な担当者	
(1)共通評価項目											
重点取組				具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)		進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ○生徒自身が、自分の考えをまとめ・発表し・質問を受け止め・より深い思考へと発展させるための授業実践 ○学習意欲を高め、主体的な家庭学習による習慣化	○「授業で興味ある学びが増え、授業が楽しいと感じる」肯定的な回答の割合が生徒70%以上 ○「学級(クラス)の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」と肯定的な回答の割合が生徒80%以上 ○「家庭で毎日主体的に学習に取り組むことができる」肯定的な回答の割合が生徒80%以上		・学習の知的好奇心やキャリア教育の充実により進路意識を高め、学習意欲を向上させる。 ・校内研修等で「唐津の学びスタイル」や「ラーニングマウンテン」を共通実践し、主体的な学びを推進する。 ・課題の質や量を考慮し、提示の仕方を工夫し、家庭学習を主体的に取り組む生徒を育成する。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動			・道徳科の授業に関する資料をまとめ、指導法を工夫・改善し、成果を共有する。 ・保護者や地域の方と連携した職場体験や産業体験を通して、郷土愛を育む。 ・学校行事等の振り返りを必ず行い、自己理解を深め、他者との協働を通して自己有用感を高め、思いやりや社会性を育む。							
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的対応ができていると肯定的な回答の割合が教員80%以上		・全職員で登下校の指導等を行い、見守る体制を整える。 ・定期的な会議を行い、気になる生徒に関する情報共有を基に、組織的な対応を行い、早期解決につなげる。 ・いじめの対応についての研修や会議を年間に2回以上行う。							
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した生徒80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答の割合が生徒75%以上		・学校教育目標に向かって、生徒が主体的に活動する場を設定したり、自主的な活動を学校行事に取り入れたりするなど、承認する場をより多く設定する。 ・発達段階に応じた目指す生徒像の系統表を作成し、体験活動やマナー検定やスピーチ集会を充実させる。							
●健康・体づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	●授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の生徒80%以上 ●運動部活動や地域クラブ活動への加入率80%以上		・運動部活動や地域クラブ活動への参加を促し、運動習慣の育成を図る。 ・昼休みに体育館開放やグラウンド開放を行い、運動に親しむ基盤づくりを行う。							
	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」について肯定的な割合生徒70%以上		・給食だより・保健だよりを発行する。 ・保健体育科担当と食育担当との連携を進める。 ・栄養教諭と連携し食育資料の情報を発信する。 ・教科等と連携した食に関する指導に取り組む。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上		・定時退勤日の設定と計画的に年休取得ができる職場の雰囲気づくりを行う。 ・部活動練習計画表を活用し、計画的な部活動休業日の設定する。 ・校務のデータ化及びICT活用による時間外勤務の適正化を行う。							
		○協働的な体制づくりによる組織力の向上。「私は組織に貢献している」という肯定的な割合が80%以上		・定期的な会議による情報の共有・共通理解の促進と早期課題対応を組織的にを行い、業務の効率化を図る。							
●特別支援教育の充実	○教員の専門性と意識の向上	○「特別支援に関する専門性が向上したと思う」と回答した教員80%以上		・月1回以上の「生活打ち合わせ」等により生徒の情報共有し、対応をする。 ・学期に1回「特別支援教育支援会議」を開催し、学校での様子や保護者の願い等を情報共有し対応する。 ・特別支援に関する研修会を2回以上実施する。							
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組				中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○キャリア教育	○学校行事や体験活動と関連付けて、課題発見、調査、まとめ、発表の過程を経て、社会人に必要なスキルを獲得するための教育活動を行う。	○学校行事や体験学習を基に、生徒全員がグループで協働して発表を行い、質疑を通して、「自分の発表は満足である」肯定的な回答の割合が80%以上 ○スピーチ集会やマナー検定で、自己理解・自己認識を高め、自己表現力を育成する。「自分の考えを周りの人に分かりやすく伝えることができる」肯定的な割合が80%以上	・生徒の主体性を高めるキャリア・マナー検定を実施し、キャリアスキルの向上を図る。 ・定期的なスピーチ集会を実施する。 ・授業等におけるキャリア教育の資質・能力を高める学習場面の洗い出しと重点化を行う。								
○特別活動の充実	○生徒の主体的活動の活性化	○「生徒会活動を中心に学校生活を充実させるよう努力している」と回答する生徒85%以上	・生徒実行委員会による学校行事の実施し、自己肯定感を高める。 ・生徒が主体的に取り組む生徒会活動の充実を図る。								
●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育											

5 総合評価・ 次年度への展望	・ ・ ・		
--------------------	-------------	--	--